

日本はインターカルチュラルになるのか - 浜松市を事例として -

Is Japan Turning Intercultural? The Case of Hamamatsu

欧米諸国では、反移民勢力が大きな影響力を発揮するようになったが、移民を受け入れた都市は、移民がもたらす多様性を活力の源泉としてきた。そうした都市のネットワークとして広がっているのが、欧州評議会が2008年に始め、120以上の都市が参加するインターカルチュラルシティ・プログラムである。

本講義では、今年度、日本の都市として初めて同プログラムに参加する浜松市を視察するために来日するフィル・ウッド氏が、浜松市の多文化共生の取り組みの評価を語る。また、インターカルチュラルシティの取り組みを参考に、日本で活動する二人の討論者とともに、日本の多文化共生の今後の方向性について考える。

日時：2017年10月7日(土)14:00-15:45

会場：明治大学中野キャンパス プレゼンスペース(6階)

講師：フィル・ウッド氏

討論：岡崎広樹・芝園団地自治会事務局長

海老原周子・一般社団法人kuriya代表理事

司会：山脇啓造・明治大学国際日本学部教授



講師プロフィール：都市政策専門家。イギリス出身。「インターカルチュラルシティ」というコンセプトの生みの親であり、欧州を中心に世界各国の都市にアドバイスを行なっている。インターカルチュラルシティのバイブルともいえる書籍 *The Intercultural City: Planning for Diversity Advantage* を、「クリエイティブ・シティ」を提唱し、都市の文化戦略の世界的権威であるチャールズ・ランドリー氏と共に執筆した。

聴講無料、定員40名

* 講義は英語で行われ、逐次通訳があります。

申込締切：2017年9月30日(土)

申込：yamawaki_keizo@yahoo.co.jp

中野キャンパス：東京都中野区中野4-21-1

主催：明治大学大学院国際日本学研究所

協力：一般社団法人kuriya

